



これらの山地は杉の造林地となり上ノ国地域には数少ない檜の自生林も認められる。また 春のワラビやゼンマイ 春秋のキノコなど山菜の豊庫としても有名である。

- 木古内は国鉄松前線と江差線の分岐点で交通の要所でもある。江差線は松前半島を横断しており 山間部では とくに新第三系松山層群の木古内層の“硬質頁岩”厚沢部層の泥岩や硬軟互層のみごとな成層と褶曲構造が車窓から眺められる。
- 基盤岩は 古-中生代の地向斜性堆積物の松前層群および上礫層群からなり 前者は北西部の江差地塊を後者は北東部の上礫地塊をなして露出する。これらはともに箱型の隆起地塊をなしており 中新世後期の堆積作用あるいは地質構造に大きな影響を与えている。
- 新第三系は 中新世前期の福山層と中-後期の松山層群からなり 南方松前地域に分布する前-中期の吉岡層および訓縫層群の地層を欠いている。

5 万分の1 地質図幅の新刊

木古内  
KIKONAI

5 万分の1 地質図幅  
地域地質研究報告

著 者 秦 光 男 (地質部)  
垣 見 俊 弘 (環境地質部)

発 行 工業技術院 地質調査所

取 扱 先 地学文献センター (0423) 62-5050

- 木古内地域は 北海道渡島半島南部に位置し 図幅の中央部をほぼ南北方向に通る分水嶺を境にして 東部は津軽海峡に西側は日本海地域に面している。地形は 津軽海峡に面する海岸線に沿って発達する砂丘-海岸段丘地形とその内側に低平な丘陵山地があって さらに標高 300-600m を示す山地からなっている。
- 市街地および集落は 木古内町の海岸および木古内川-中野川流域と上ノ国町地域のみで 大半は山林で占められている。

- 松山層群は中期から後期にかけての一連の海成層で 基底部をなす海進初期の砂礫層からなる大安在川層は 基盤岩をなす松前層群および上礫層群はもとより 福山層を不整合関係に覆っていることが地質図上でみごとに示されている。
- 松山層群の主部をなす地層は いずれも海成の泥質相からなるが“硬質頁岩”を主体とする木古内層 泥岩および硬軟互層からなる厚沢部層 シルト岩を主とする館層に3区分されている。なお これらの地層中には 多くの鍵層となる酸性凝灰岩があり よく追跡され地層の構造と同時に 主として南北方向をとる褶曲・断層構造との関係などがよく現れている。
- 中新世後期から鮮新世にかけての火山活動の産物である玄武岩・安山岩・デイサイトおよび流紋岩などの岩脈あるいは溶岩は 北東部の上礫隆起地塊の西縁部や断層構造線上などで の活動として顕著に示されている。

地質ニュース	第299号	7月号
	定価 ¥500	千実費
昭和54年7月1日	発行	
編集	工業技術院 地質調査所	
発行人	林 久	
発行所	株式会社 実業公報社	
	東京都千代田区九段南4の2の12	
	Tel. (03) 265-0951 (代表)	
	振替口座 東京 32466	
総発売元	大蔵省印刷局	政府刊行物仕入部
	東京都港区赤坂葵町2	
	Tel. (03) 582-4866	
印刷所	共同印刷株式会社	